

問1	酸化銅などの酸化物が、他の物質によって酸素を奪われて、もとの物質に戻る化学変化を何というか、名称を答えなさい。 （2018年 福島県公立入試 類似）			
	1. 分解	2. 還元	3. 酸化	4. 化合
問2	物質は、構成する原子の種類によって「単体」と「化合物」に分類されます。次の物質のうち、1種類の原子だけで構成されている単体を選びなさい。 （2021年 石川県公立入試 類似）			
	1. 硫黄	2. 水酸化ナトリウム	3. アンモニア	4. 硝酸
問3	原子は、中心にある原子核とそのまわりをとりまく粒子で構成されています。原子核を構成する「正の電気を持つ粒子」と「電気を持たない粒子」、および原子核のまわりにある「負の電気を持つ粒子」の名称の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 （2015年 鹿児島県公立入試 類似）			
	1. 正の電気を持つ粒子；電子、電気を持たない粒子；中性子、負 de 電気を持つ粒子；陽子	2. 正の電気を持つ粒子；陽子、電気を持たない粒子；電子、負の電気を持つ粒子；中性子	3. 正の電気を持つ粒子；陽子、電気を持たない粒子；中性子、負の電気を持つ粒子；電子	4. 正の電気を持つ粒子；中性子、電気を持たない粒子；陽子、負の電気を持つ粒子；電子
問4	密閉された容器の中にうすい塩酸と石灰石を入れ、容器全体の質量電子天秤で測定しました。その後、容器を傾けて2つの物質を混ぜ合わせて気体を発生させたとき、反応後の質量はどうなりますか。最も適切な説明を選びなさい。 （2026年 和歌山県公立入試 類似）			
	1. 化学反応によって新しい物質ができるため、質量は増加する	2. 反応の前後で、容器全体の質量は変化しない	3. 気体が発生して容器内の圧力が上がるため、質量は増加する	4. 石灰石が溶けて見えなくなるため、質量は減少する
問5	炭酸水素ナトリウムの熱分解を原子のモデルで考えます。反応前の状態として、ナトリウム原子1個、炭素原子1個、水素原子1個、酸素原子3個が結合した塊が2セット（合計でナトリウム2個、水素2個、炭素2個、酸素6個）あるとします。ここから加熱によって、炭素原子1個と酸素原子2個からなる二酸化炭素が1分子、水素原子2個と酸素原子1個からなる水が1分子生じました。このとき、残った原子をすべて組み合わせてできる炭酸ナトリウム1粒子の構成として正しいものはどれですか。 （2024年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. ナトリウム原子2個、炭素原子1個、酸素原子3個	2. ナトリウム原子2個、炭素原子1個、酸素原子2個	3. ナトリウム原子2個、炭素原子2個、酸素原子6個	4. ナトリウム原子1個、炭素原子1個、酸素原子3個
問6	スチールウールの燃焼という化学変化について、その原理を「酸化」「酸素」「熱」「光」の言葉を用いて説明したものとして、最も適切なものはどれか。 （2025年 茨城県公立入試 類似）			
	1. 物質が酸素とゆっくり結びつく酸化の一種であり、熱は出すが光は出さない現象。	2. 物質が周囲の熱を吸収して酸素と入れ替わる現象であり、反応後に光を放出する酸化。	3. 物質が酸素と激しく結びつく酸化の一種であり、反応に伴い熱と光を放出する現象。	4. 物質に含まれる酸素が熱によって離れていく反応であり、その際に強い光を出す現象。
問7	鉄粉と硫黄の粉末を混ぜ合わせたものを試験管に入れ、混合物の上部をガスバーナーで加熱したところ、加熱を止めた後も激しく熱や光を出しながら反応が続きました。このように、化学変化が起こる際に熱を放出し、周囲の温度を上昇させる反応を何といいますか。 （2026年 茨城県公立入試 類似）			
	1. 還元反応	2. 中和反応	3. 吸熱反応	4. 発熱反応
問8	鉄粉 7.0 g と硫黄の粉末 6.0 g をよく混ぜ合わせ、混合物の一部を加熱して反応を開始させました。反応が完全に終わったとき、反応せずに残る物質の種類とその質量について、正しい組み合わせはどれですか。 （2024年 岩手県公立入試 類似）			
	1. 鉄が 3.0 g 残る	2. 硫黄が 4.0 g 残る	3. 鉄が 2.0 g 残る	4. 硫黄が 2.0 g 残る
問9	酸化銀の熱分解を原子のモデルで考える。反応後に銀原子が4個と、酸素原子2個が結びついた酸素分子が1個生じたとする。化学反応において反応の前後で原子の総数が変わらないという原則に基づくと、反応前にあった酸化銀の粒子（銀原子2個と酸素原子1個が結びついたもの）は何個であったといえるか。 （2025年 三重県公立入試 類似）			
	1. 3個	2. 1個	3. 2個	4. 4個
問10	空気の組成について、窒素は約78パーセント、酸素は約21パーセント、残りの約1パーセントにアルゴンや二酸化炭素などが含まれています。このうち、最も体積比が大きい窒素の化学式と、窒素の性質について述べた文の組み合わせとして適切なものを選択肢から選びなさい。 （2018年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 化学式はNであり、酸素分子（O ₂ ）よりも空気中に含まれる割合が高い。	2. 化学式は2Nであり、他の物質を燃やすはたらきがある。	3. 化学式はN ₂ であり、二酸化炭素よりも空気中に含まれる割合が低い。	4. 化学式はN ₂ であり、酸素に比べて空気中に約3.7倍多く存在している。
問11	化学変化の前後において、物質全体の質量が変化しない理由として最も適切な説明はどれですか。 （2020年 高知県公立入試 類似）			
	1. 化学変化によって、反応前の物質を構成していた原子が消滅し、新しい原子が作られるため。	2. 化学変化の前後で、物質の状態が固体から液体や気体に変化しても体積が変わらないため。	3. 化学変化の前後で、原子の組み合わせは変わるが、原子の種類と数は変わらないため。	4. 反応によって生成された物質の密度が、反応前の物質の密度よりも必ず大きくなるため。
問12	固体の物質を試験管に入れて加熱する実験では、試験管の口を底よりもわずかに下げて固定します。この理由として適切な説明はどれですか。 （2016年 高知県公立入試 類似）			
	1. 発生した気体が液体に変わる際、試験管の口から外へ流れ出しやすくするため	2. 発生した液体が加熱された熱い部分へ逆流し、試験管が破損するのを防ぐため	3. 試験管の中に溜まった空気が熱で膨張し、試験管が破裂するのを防ぐため	4. 試験管の底に熱が集中しすぎるのを防ぎ、均一に加熱できるようにするため
問13	化学変化の前後において、反応に関係した物質全体の総和は変化しないという法則を何というか。その名称として最も適切なものを答えなさい。 （2026年 秋田県公立入試 類似）			
	1. 定比例の法則	2. 質量保存の法則	3. 慣性の法則	4. エネルギー保存の法則